



本庄児玉病院

広報誌第25号

さくら

contents

- ❁ 精神科コラム
- ❁ 院内行事・院内研修
- ❁ 作業療法士室だより
- ❁ 外来患者延数・入院患者数
- ❁ 栄養課「お誕生日会のおやつ」



「社会」とはなにか

我々は、ほぼ暗黙の了解の内に、「社会」という言葉を日常的に用いている。また、「社会学」、「社会問題」、「社会主義」等様々な文脈でも用いられるし、「政治」や「経済」等も、広義の「社会」に含まれよう。また、最近「反社会的勢力」といった言葉もメディアでよく目にする。

では、「社会」とは何か。辞書的にも、学問的にもいくつもの定義があるが、狭義では「二個体以上の共同体」である。そう考えれば「家族」はもちろんのこと、「夫婦」だけでも一つの「社会」である。

また、広義の「社会」の範囲も、組織等の集合体なのか、国家なのか、人類社会なのか、他生物まで含めた概念かでも大分異なる。

例えば、「社会のために尽くす」と言っても、会社等の組織のために尽くす行動が、国家にとってマイナスとなるかもしれないし、国家のために尽くす行動が、人類社会にとってマイナスになるかもしれないし、人類社会のために尽くす行動が、他生物を含めた生態系や地球環境にとってマイナスになるかもしれない。

「社会復帰」を目指す人は「社会」にいないのか

よく「社会に出たら・・・」や、「それでは社会復帰できない」などの言説があるが、(もちろん言わんとしていることは分かるもの)ある種の違和感がある。なぜなら、誰もが生まれた瞬間から何らかの「社会」の一員であり、「家族」も「学校」も「社会」であることに他ならないし、「刑務所」等の施設も一つの「社会」と考えるからである。

多くの人が一般的に用いている「社会」とは、結局のところ「家庭」や「施設」以外のことを指しているのではない。無論それぞれ質が異なり多様ながら、あえて並列的に書けば、学校等の「教育施設」、刑務所等の「矯正施設」、病院等の「医療施設」、その他福祉的な「養護施設」、「障害者施設」、「高齢者施設」など施設にいる者は「社会の外」に在るのだろうか。

「国家」もまたある種の巨大な「施設」か

以前に述べた「自己家畜化」の概念を用いれば、「国家」という社会全体の管理下において、「社会の役に立つ」ように「飼い慣らす」段階や、「社会の役に立たない」、もしくは「社会のルールを守れない」人は、何らかの「施設」に一定期間(一定時間)、程度や内容の差はあっても、ある意味「隔離」された状態に置かれる。

だが、「自己家畜化」論を突き詰めれば、個々の国家そのものがある種の巨大な「施設」と考えることもできる。善し悪しは別として、基本的に誰もが、それぞれの国の「ルール」に縛られ、「労働」と「納税」の「義務」があり、様々な点で相互的に監視・管理されている。そして、以前のコラムで触れたようにそれらが時代と共に強まっている。

「個人」と「社会」

「ワンフオーオール、オールフオーワン」という一般に知られた言葉(ラグビー用語)がある。これは、「個人は社会のために、社会は個人のために」と取るのは間違いで、本来は「個々はチームのために、チームは勝利のために」という意味である。一般化すれば、「個人は組織のために、組織は目的のために」ということになるだろう。

ただ、前者のように受け取られていることも少なくないのは、一般的に「個人」と「社会」が表裏一体的なものとして捉えているから故とも思われる。しかし、もしそのどちらが優先されるのかという議論となると、思想的な立場による相違が生まれよう。

筆者はここにも前回述べた「トレードオフ」の関係が成

院長

高野 覚

り立ち、一つの正解はないと考えるが、もし、これをあくまで生物学的視点からのみで考えるならば、遺伝学的にも、行動生態学的にも、「社会」より「個人」の方が優先される。

ヒトは社会性生物だが、「真社会性」生物ではない

遺伝学上の利己性についてはここでは省くが、行動生態学的視点においても、確かにヒトは社会性生物ではあるが、「アリ」などの社会性昆虫などは異なり「真社会性」生物ではない。「真社会性」である社会性昆虫は、原則個々では生存できず、個々の個体があたかも集団という「超個体」の一細胞のように振舞うことがある。しかし、人は「社会」という生物の一細胞でもなければ一歯車でもない。

「社会」を形成するのは、その方が個々の適応(生存や繁殖)にプラスになることが多いからであって、万一「社会」というものが個々にとつてマイナスとなるのなら、個々で生活した方がよいということになる。一般的に後者は、生存や繁殖上相当不利にはなるものの、実際霊長類等の集団に属する個体においてもそのような行動は見られる。

ただ、野生の霊長類と現生人類の異なる点は、紀元前一万年前頃より地球全体にほぼ行き渡ってしまった現生人類は、いずれもが何らかの国家的なものによつて「家畜化」されており、そこから離れた個体が逃げる先にも、追放された先にも「新たな自由な土地」はもはやないことである。集団を考えても、もはや新たに開拓し、入植できる土地はない(近年の歴史上においては原住民から奪っている)。

現代の「社会」の「ルール」を守れず排除された個体は、「隔離」される

よつて、多様性はあるものの、いずれの国や地域においても、その国家的縄張りの管理下において、「ルール(法)」

を守れず「社会」から排除された個体は、何らかの「施設」等に「隔離」される(か殺される)ことが多いのである。

近代社会において、「社会」から「追放」する「流刑」や「島流し」は「死刑」レベルの重刑であった。例えば日本では、明治四一年まで「流刑」は「死刑」に次ぐ重刑であり、平安時代の一時期「死刑」が廃止されていた時には、「流刑」が最高刑であった。しかし、近世以降は流刑地とされた島々等にも一般的に「社会」が出来ており、もはやそこへ流すこともできなくなつたため、何らかの施設等へ「隔離」されるようになったのである。

なお、精神障害者は近年まで自宅内の牢的小部屋に「隔離」されることが多かったし、ハンセン病患者の隔離もごく近年まで続けられ、国家や社会により非人道的な扱いをされたことはよく知られた通りである。

「社会」とは「縄張り(テリトリー)」を守る「ルール(法)」と「階層性(順位)」か

以前にとある医学誌上で言及したのだが、進化学的視点からの「社会」について、筆者の考えを最後に示してきた。

あらゆる生物種は、それぞれの生存と繁殖のために「縄張り」を持つ。また、哺乳類や鳥類などの一部の動物種では、集団を形成して「テリトリー(縄張り)」を持ち、それを維持するための何らかの「ルール」と「階層性(順位)」を持つ。我々の「サル」のイメージに近いニホンザルにしても、ヒトに近縁のチンパンジーやボノボにおいても同様である。そして、古今東西の人類社会においても、その様式は多様ながら、何らかの「テリトリー(縄張り)」と、それを守るための「ルール」と「階層性」がみられる。

行政組織においても、会社組織においても、あるいはいわゆるヤクザなどの反社会的勢力と呼ばれる組織においても、必ず何らかの「テリトリー(縄張り)」と、「ルール」と、「階層性」を持つ。それが、生得的なものだからである。

他の生物種にも土地などの物理的な縄張りや食料な

どの経済的な縄張りがあり、食べるものの種類が違つていけば(くいわけ)、物理的縄張りには被つてゐることもある。人類社会の縄張りも、物理的な土地に限らず、権益とよばれるような経済的なものもある。そして、資本主義であろうと、社会主義であろうと、それぞれの物理的、経済的縄張りを守るための「ルール」と「階層性」があることには変わりがない。

「社会」とは、そうした進化的背景を持つ「テリトリー(縄張り)」を守るための「ルール」と「階層性」の仕組みと考える。

ただ、「自己家畜化」され、世界人口が著しく増加した人類は、もはや野生の狩猟採集社会では生きられず、国家的、もしくは社会的な「テリトリー」と、そこでの「ルール」や「階層性」がかなり厳格化され、相互管理・監視的な社会で生きている。それがもはや後戻りできないであろう現生人類社会の成立要件かもしれないが、遺伝的、生得的な面からみれば相当「不自然なストレス」下に置かれていともいふ、そのことが、「うつ」などの状態異常を増加させている可能性があるかと筆者は考える。

また、現生人類社会内の視点で、個々の「国」、「業界」、「会社」等のそれぞれの「社会」から、別の「社会」に「移る」ことを考えれば、「逃げる先」はある。よつて、その「社会」に留まる事が、個々の適応上著しくマイナスであるならば、そこを離れて新たな「社会」を見つける方が適応的な場合もある。

だが、「社会」の「階層性」の視点からは、一般的に「下位」からの「やり直し」となることが少なくないことは、慎重に検討する必要がある。

(尚前回のコラムの最後に触れた「性的二型」が、男女の価値観や行動に及ぼす進化学的視点からの説明については、誌面の都合上次回のコラムにて詳述させていただきたい。)

待ちに待った春

児玉千本桜へお花見！



ぽかぽか暖かい日差しに包まれながら、
お花見散歩へ行ってきました。
桜を見て春を感じながら、楽しい時間を過ごしました！

本庄早稲田ベイシアスーパーセンター、上里イオンへお買い物



ご家族さまも参加出来、
患者さまもご家族さまも
楽しんでいただけました。



キャラバン外出

買い物の後は、
お楽しみおやつタイムです！
パンや甘いものが人気です！

長泉寺 藤の花観賞

藤がサラサラと風に
揺れ、境内は甘い香りに
包まれていました。



ホッと一息。

くつろぎの時間です。



きれいな藤の花に
癒されまた。

本庄早稲田高校フラスバンド慰問演奏会



本庄早稲田高校フラスバンド部
の生徒さんが慰問演奏会に来て下
さいました。

迫力の生演奏に感激！



地域活動 4月4日 地域交流会(ケアマネージャーさんとの交流会)を行いました。17名の方たちが参加しました。

プログラム

1. 開催のあいさつ
2. 本庄児玉病院の紹介
3. 自己紹介
4. 当院や認知症についての Q&A
5. 歓談時間
6. 院内見学
7. 終了のあいさつ



各ケアマネージャーさん達からも
好評でした。今後も地域と協力し、
連携を図っていきたく思います。



4月22日院内看護研究発表会を開催しました。外来、2階病棟、3階病棟と各部署が研究を重ねてきた内容を発表しました。看護研究に取り組むスタッフ1人1人の熱い思いが伝わってきました！

外来でのお茶の提供とその効果 ～外来～



研究目的

待ち時間の配慮のひとつとしてのお茶の提供がどの程度効果があるのかアンケート調査を用いて明確化し、今後に生かす。

結論

お茶の提供が、患者さまや付き添いの家族のリラックスに影響しているといえる。外来の混雑状況や個々の状況によってお茶の提供が出来ない場合も多い。今後は、お茶だけでなく別のリラックス方法等を模索し、より多くの患者さま・家族が安心して外来通院が出来るようにしていく必要がある。

おわりに

今回の研究で、お茶の提供が精神科外来受診の気持ちの変化に影響していることが分かった。得られた結果を今後の外来看護に活かし、より良いサービスが提供できるよう努力していきたい。

車椅子乗車患者さまの安全ベルト解除について ～2階病棟～



研究目的

本研究は車椅子乗車時の安全ベルトをはずし、又、拘束についての考え方を深く見直すことを目的とする。

結論

1. Kさま、Tさまに安全に安全ベルトをはずすことができ、今まで不必要な拘束を行っていたことが明らかになった。
2. 安全ベルトを使用していた前年度と、今年度を比較しても、転倒、転落の件数に大きな変化はなかった。
3. スタッフの中でも「拘束ゼロ」に対する意識の統一ができていない

おわりに

今後の課題として「拘束ゼロ」を目指すにあたり、スタッフ全員が共通の意識を持ち、そして一丸となり安全ベルトの解除に取り組んでいく必要がある。

「もっと動けるようになりたい」～ADL向上を目指した排泄介助～

研究目的

本研究は患者さまのADL向上を目指した排泄介助を目的とする。

～3階病棟～



結論

日々の生活環境を整え排泄パターンをつかみ毎日繰り返し行うことが重要である。継続して行い、より良い方法を考えその人に合った適切なケアを考えることが必要であると認識した。B氏の場合、今現在、日中の排泄行為は自立となり、これにより表情も明るくなりADLだけでなくQOLも向上したと考える。日々積み重ねていくこと、思いに添うケアが大切なことと改めて考えさせられた。

おわりに

日常的に患者さまとのコミュニケーションを図ることで気持ちを汲み取り、個々に合った援助、ケアを日々取り組んでいきたい。

転倒予防

今回は、前回に引き続き転倒予防体操についてご紹介いたします。前回は転倒予防体操が何故必要なのか、転倒しやすい生活の場所はどこか、などの他に、転倒予防体操の前段階としてのフットケアについてご紹介しました。

今回は、実際の転倒予防体操のストレッチ編（立位のストレッチ）についてご紹介します。紙面の都合上、ストレッチ編（椅子でのストレッチ、床でのストレッチ）、筋力トレーニング編は次回にまたご紹介できれば、と考えています。

転倒予防体操について パート2

○体操を始める前の注意事項

- ① 1人1人関節の動く範囲や筋力の強さは異なります。イラストの人と全く同じ体勢にならなくても構いませんので、目標とする身体の部位が伸びているか、力が入っているかを感じながら行ってください。
- ② 特に以下の点に気をつけて行ってください
 - ・伸びる時、力を出す時は息を吐きましょう。
 - ・痛みが出るまで伸ばしたり、力を入れたりしないようにしましょう
 - ・反動をつけず、ゆっくり行いましょう
- ③ 回数や頻度など
 - ・ストレッチ
柔軟性を高めるためには、入浴後など体の温まった時に行うのが効果的です。ウォーキングや筋力トレーニングの前後に行うとケガの予防や疲労回復につながります。毎日行っても構いません。
 - ・筋力トレーニング
一つの動きを反復して行います。初めはほんの数回でも構いませんが、慣れてきたら10回を目安に行ってください。力がついてきたら、10回を1セットとして、セット数を増やしていきます。頻度は1週間に2～3回を目安にしてください。全部をやってみたり、もしくは気になる箇所を部分的に試してみてください。

○立位のストレッチ

1 上半身のストレッチ

- ① 足を肩幅に開き、両手を胸の前で組みます。
- ② 手の甲を天井に近づけるように上げながら伸びます。



2 体側のストレッチ

- ① 1の姿勢から上体を右側に倒していきます。顔や胸は前に向けたまま伸ばします。
- ② 体を戻して一度手を下します。反対側も同様に行います。



3 背中と胸のストレッチ

- ① 足は肩幅に開き、両膝を少し緩めます。
- ② 両手を胸の前で組み、手の甲を前方に出していきます。頭を腕の間に沈め、背中を十分丸めます。
- ③ 手を離して体を起こします。次に両手を背中で組んで、斜め下に引きます。顔は斜め上を見て、胸を天井に向けてしっかり開きます。



4 ふくらはぎのストレッチ

- ① 両足を揃えて立ち、片足を大きく1歩後ろに引きます。両足のつま先と踵は平行になるように気をつけます。
- ② 両手は前足の太ももに添えて、前足に体重をかけます。後ろ足の膝は伸ばして踵を床につけます。頭から踵までを真っ直ぐにして伸ばします。
- ③ 後ろ足を一度戻して、反対の足も同様に行います。

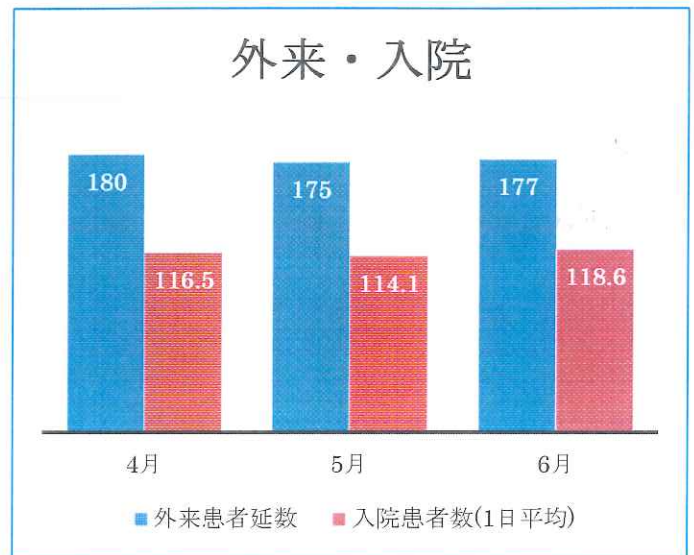


5 太もも（前面）のストレッチ

- ① 右手で壁などを支え、横向きに立ちます。
- ② 左手は左足首を持ち、踵をお尻につけるようにします。左ひざを後方に引くように伸ばします。
- ③ 足を一度戻して、反対の足も同様に行います。



	月	火	水	木	金
午前	高野	高野	齋藤	新谷	新谷
午後	齋藤	高野	齋藤	新谷	新谷



栄養課

おたんじょう日

《お誕生日会のおやつ》

月に1度行われるお誕生日会では、おやつ時間にケーキとコーヒーまたは紅茶を提供しています。今月はロールケーキでした。ケーキが食べづらい方へは手作りプリンを提供しました。



★ (バニラプリン~オレンジソースがけ~)



★ロールケーキ

